療法名 **VNB**

適応 乳癌

抗癌剤適応分類 進行・再発癌

| 第2版 | 2022年2月 |
|---|---|
| 登録番号 | 乳-5 |
| 登録年月日 | 2013年1月 |

| 投与順 | 抗癌剤名（一般名） | 【略語】 | 1日投与量 | 投与法 | 投与時間 | 投与日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **ロゼウス®**<br>（ビノレルビン） | VNB | 25mg/㎡ | 点滴静注 | 5分 ※ | d1、d8 |

| | day | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| VNB | 25mg/㎡ | ↓ | | | | | | | ↓ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|---|---|
| 1コース期間<br>（次のコースまでの標準期間） | 3週間(2週投薬1週休薬) |
| 総コース数 | PDまで |
| コース間での休薬規定 | チェックリスト参照 |

| | |
|---|---|
| 減量規定・中止基準 | チェックリスト参照 |
| 投与量の増量規定 | なし |
| 投与間隔の短縮規定 | 1日短縮可 |
| コースによる変化 | d8で投薬延期となった場合、d15より次コースをスタートすることもある |
| 1日の中での抗癌剤投与順 | ※ビノレルビン投与後30分以上フラッシュを行う |
| プレメディケーション | なし |
| ポストメディケーション | ルーチンではなし |

| | |
|---|---|
| 主な副作用とその対策 | チェックリスト参照 |
| 患者条件 | チェックリスト参照 |
| 除外規定 | チェックリスト参照 |
| 実施上の注意点 | ①起壊死性抗癌剤のため、血管炎発症が懸念される場合は末梢ルートは選択しない<br>②VNB投与による血管痛、静脈炎、血管外漏出による組織障害を防止するために50mLの生理食塩液に溶解し、血管が確保されていることを確認しながら5分で点滴する。その後、250mL生理食塩液で十分洗い流す<br>③血管外漏出が発生した場合、冷却により悪化することがあるため、冷却は基本的にしない |

| | |
|---|---|
| 備考 | 日本での保険適応はアンスラサイクリン、タキサン抵抗性乳癌 |
| 治療成績 | (海外データ)<br>アンスラサイクリン、タキサン抵抗性となった転移性乳癌に対してweekly VNB(25～30mg/㎡、Grade3～4好中球減少で20mg/㎡に減量)を投与しPR25%、median TTFは6ヶ月であった。進行再発乳癌患者に1st lineでweekly VNB(30mg/㎡、実際のmean dose intensity 68.5%)を投与しCR7%、PR34%、SD30%、median TTF6ヶ月であった。Grade4 toxicityは好中球減少だけであった<br>(RCT vs メルファラン) OSの延長が証明されている |
| その他 | なし |

参考文献 南江堂 リスク別 がん化学療法レジメン 改訂第2版
乳癌診療ガイドライン 2011年度版